



希望に満ちて

さいたま市立大門小学校

心豊かで たくましい
大門小児童の育成
< 夢と目標をもち、
生き生きと活動する子ども >

大人の我々が、まずは本を読んでいきましょう

さいたま市立大門小学校
校長 石川 聡

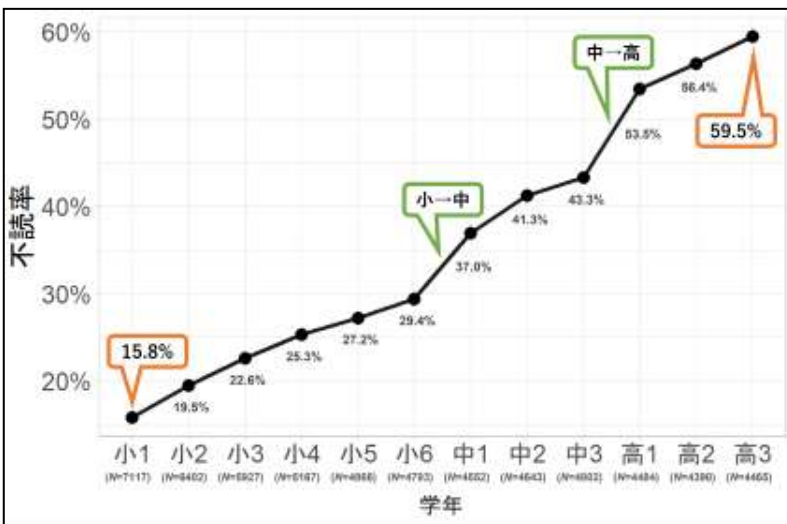
明日からゴールデンウィーク後半になります。5月1日は「さいたま市民の日」、5月2日は先週の土曜授業日の振替休業日となり5月6日までの6連休となります。子どもたちには、休み中に安全に過ごせるよう指導しました。有意義な休日となり、連休明けにまた元気な顔を見せてくれることを楽しみにしています。

さて、皆さんは本をどのくらい読んでいますでしょうか。少し前の調査ですが、2017年にGfK ジャパンが世界17カ国、22,000人のインターネットユーザーに対し本を読む頻度についての調査を実施しました。その結果、諸外国では3割の人が毎日本を読むと回答したそうです。しかしながら、日本の状況は以下のとおりで、読書頻度の順位は調査した17カ国中で15位でした。

毎日・ほぼ毎日読む 20%	少なくとも週1回は読む 24%	少なくとも1回読む 16%	ほとんど読まない 29%	全く読まない 11%
------------------	--------------------	------------------	-----------------	---------------

(引用：<https://jmra-mds.jp/wp/wp-content/uploads/2019/12/20170327GfK.pdf>)

学生に目を向けてみると、全国学校図書館協議会による第68回学校読書調査(2023年)では、不読者(1か月間に読んだ本が0冊の児童)の割合は、小学生は7.0%、中学生は13.1%、高校生は43.5%でした。(引用：<https://www.j-sla.or.jp/material/research/dokusyotyousa.html>) この数字は学校の読書時間を含めての値なので、学校外の読書時間は、北里大学一般教育部 猪原 敬介 講師が分析しています。(引用：https://berd.benesse.jp/special/childdedu_researcher/ihara.php) それ



によると、1日0分の不読者率は、小学校1年生でも15.8%と学校読書調査の値から倍増します。小学校6年生では29.4%と4倍以上です。

東京大学 佐藤 学 名誉教授は、時事通信社発行の内外教育の巻頭文にて、「生きる世界を豊かにする教養は読書の学びによってでしか形成することはできない。」「読書の喜びと習慣を子どもたちに育まない限り、子どもたちの将来も日本社会の未来もない。」と論じています。

賛否あるとは思いますが、私も長年教育に携わる者として、大いに賛同しました。

まずは我々大人が本を読む姿を子どもたちに見せ、子どもたちに本を読み聞かせたり、薦めてあげたりする。そして、可能であれば書棚いっぱいの本を用意してあげる。そのようなことが子どもたちの豊かな未来につながっていると考えています。学校でも読書活動を一層推進して参りたいと思いますので、保護者の皆様もどうかご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。